令和３年度

マイスター・ハイスクール事業

成果報告書

岡山県立真庭高等学校
MANIWA HIGH SCHOOL

自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想

－「環境（SDGｓ）」×「アグリビジネス」⇒豊かな生き方・働き方－

１　はじめに

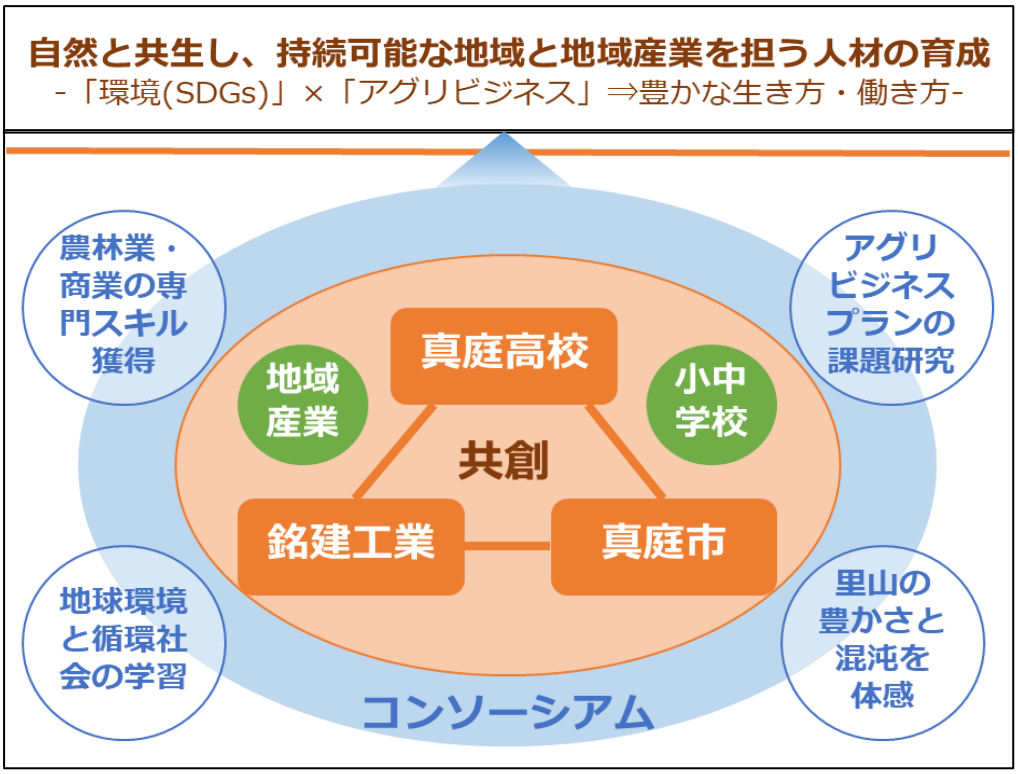
真庭市は、岡山県北部に位置する人口 45,000 人規模の市である。真庭市は、山林資源を活用した木質バイオマス発電やバイオマスツアー等で全国的にも知られており、SDGｓ目標達成を組み込んだ地域づくりに取り組んでおり、「SDGｓ未来都市」にも選ばれている。最近では CLT（直交集成材）やバイオ液肥を活用した農業促進や、地域資源を観光に生かす観光地域づくりなど、市民とともに SDGｓ達成を目指す活動を展開している。このように真庭市では、先進的に循環型社会づくりの取組を推進し、“真庭らしさ”を作り出している。

このような中で、人口減少・高齢化が進み、持続可能な地域産業構造の構築やそれを担う産業人材の育成が課題となっている。さらに、“どのような生き方・働き方が豊かであるか“が問われ、学校教育におけるキャリア教育を通じて真庭市で生きる産業人材育成を地域全体で進めていくことが急務となっている。

２　事業概要

・中山間地域において自然と共生しながら持続可能な地域産業と地域を担う人を育むため、産業と教育に知見を有する真庭市職員をマイスター・ハイスクール CEO、銘建工業社員を産業実務家教員として真庭高校に配置するとともに、小中連携等に取り組む郷育魅力化コーディネーターの配置やコンソーシアムの構築により地域で高校教育を共創する。

・真庭高校において、真庭市の農産物を生産・加工・販売する６次産業化への学習を農商連携により展開するとともに、地域の農林業資源を活用した農業体験や観光プランの提案等を行うビジネスプランの作成に取り組む。地元関連企業と連携し、新商品の開発・提案を行うとともに、模擬会社スタイルの学習展開の中で起業家教育を推進する。



3　事業実施体制

＜マイスター・ハイスクール運営委員会＞

氏名	所属・職
豊田　涼	岡山県立真庭高等学校・校長
中島　浩一郎	銘建工業株式会社・代表取締役社長
太田　昇	真庭市・市長
鍵本　芳明	岡山県教育委員会・教育長
大月　隆行	真庭商工会・会長
岡田　茂樹	晴れの国岡山農協・真庭統括本部常務理事
澁澤　壽一	NPO 法人共存の森ネットワーク・理事長
池永　京子	Maman 代表
中村　妃佐子	株式会社 HAPPY FARM plus R　取締役

＜マイスター・ハイスクール事業推進委員会＞

氏名	所属・職
平田　勉	マイスター・ハイスクール CEO
豊田　涼	岡山県立真庭高等学校・校長
中島　洋	銘建工業株式会社・総務人事部長
道満　洋和	岡山県商工会青年部連合会・理事
三村　伸行	NPO 法人真庭あぐりガーデンプロジェクト・ｾﾞﾈﾗﾙﾏﾈｰｼﾞｬｰ
牧　邦憲	真庭市・産業政策課長
赤田　憲昭	真庭市教育委員会・教育次長
室　貴由輝	岡山県教育庁・高校教育課高校魅力化推進室長
杉山　俊幸	岡山県立真庭高等学校久世校地・副校長
武村　克彦	岡山県立真庭高等学校落合校地・副校長
大越　健太郎	銘建工業株式会社・小断面工場長（産業実務家教員）
吉野　奈保子	NPO 法人共存の森ネットワーク・事務局長（真庭市郷育魅力化コーディネーター）
大岩　功	一般社団法人はにわの森・代表（真庭市郷育魅力化コーディネーター）
三村　公一	真庭支部中学校長会・会長

４　令和３年度の実施計画

①　マイスター・ハイスクールビジョン【マイスター・ハイスクール運営委員会】

・マイスター・ハイスクールビジョンの構想と実現に向けた方向性について深く検討し、策定する。

②地域を担う人材育成カリキュラム【マイスター・ハイスクール事業推進委員会】

・マイスター・ハイスクールビジョンに基づき、自らの生き方と持続可能な地域産業を重ねて考え、地域の担い手を育成するために必要な教育課程を検討する。

・真庭高校での学びを小中学生に伝える交流学習の在り方を研究する。

③地域産業学習カリキュラム

【CEO・産業実務家教員・新学科検討委員会・進路指導課】

・令和３年度における久世校地（農業科）での、環境と産業についての学びと地域産業及び地域での実習の場を、マイスター・ハイスクール CEO を中心に検討し、産業実務家教員が課題研究等で真庭市の産業等を指導するとともに、実習先で体験的に指導する。また、地域産業学習を進路指導に結びつけ、地域の担い手を育成するシステムの検討を行う。

④地域資源を活用した学習カリキュラム【CEO・真庭高校】

・令和４年度に農業科及び商業科の全部又は一部の生徒に対して実施する、地域企業等と連携した取組内容を検討し、連携先を開拓する。また、全学科で行う総合的な探究の時間における、地域を知る取組内容についてプログラム開発を行う。

⑤学校設定教科・科目の研究【マイスター・ハイスクール事業推進委員会】

・令和５年度に、農業科及び商業科の生徒に対して開設予定の学校設定教科・科目について、学科横断型学校設定科目の内容を検討し、連携先を開拓する。

⑥郷育魅力化コーディネーターとの連携活動

【CEO・郷育魅力化コーディネーター・久世校地農業２科】

・郷育魅力化コーディネーター・久世校地農業２科による小中学校との連携活動の実施。

・郷育魅力化コーディネーターを中心として、教科・科目や総合的な探究の時間において、聞き書きの手法を取り入れた活動を実施する。

⑦活動を支援する体制の構築【管理機関】

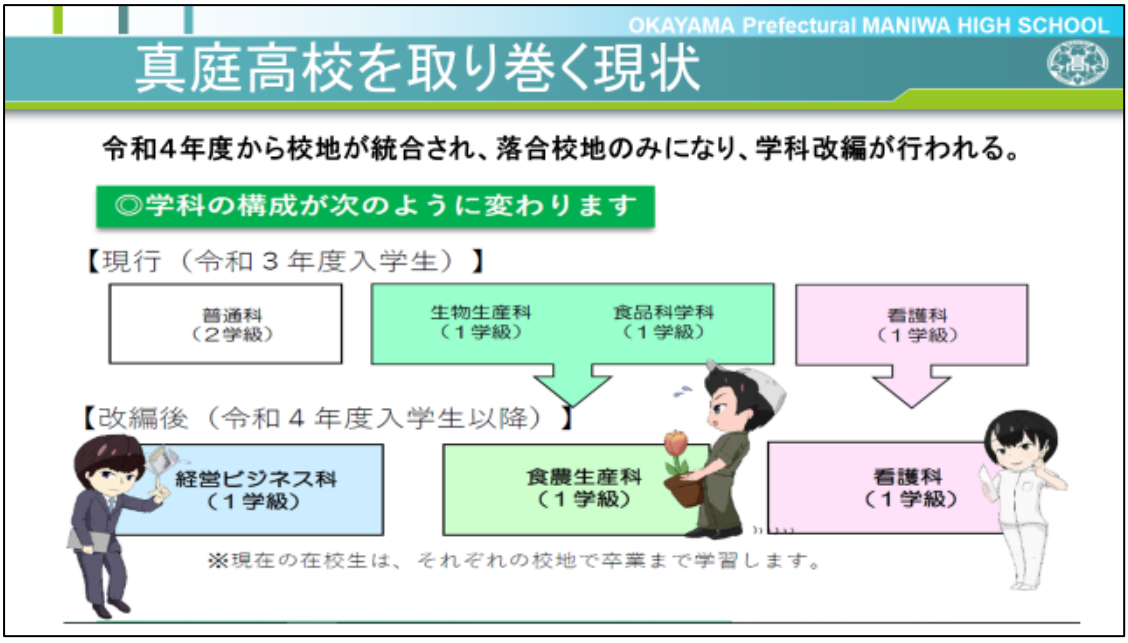
・本事業に参画する個人・団体を広げ、コンソーシアムを構築する。

<table>
<tr><th>業務項目</th><th>ﾏｲｽﾀｰ･ﾊｲｽｸｰﾙ
ビジョン</th><th>地域を担う
人材カリキュラム</th><th>地域産業
学習プログラム</th><th>地域資源を活用した学習カリキュラム</th><th>学校設定教科･科目の研究</th><th>郷育魅力化コーディネーターとの連携活動</th><th>活動を支援する体制の構築</th></tr>
<tr><td>担当部署</td><td>運営委員会</td><td>事業推進委員会</td><td>CEO
産業実務家教員
新学科検討委員会
進路指導課</td><td>CEO
真庭高校</td><td>事業推進委員会</td><td>CEO
郷育魅力化ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
久世校地</td><td>管理機関</td></tr>
<tr><td rowspan="2">業務の具体</td><td rowspan="2">ビジョンの構想と実現に向けた方向性の検討</td><td>教育課程の検討</td><td>R3久世校地で実施する内容の検討と実務家教員による指導</td><td>Ｒ４実施予定の地域企業と連携した取組内容の検討と連携先の開拓</td><td rowspan="2">R5開設予定の内容を検討し、連携先を開拓</td><td>小中学校との連携活動の実施</td><td rowspan="2">ｺﾝｿｰｼｱﾑの構築</td></tr>
<tr><td>真庭高校と小中学生の交流学習の場検討</td><td>地域の担い手を育成するシステムの検討</td><td>総探における地域を知る取組内容のプログラム開発</td><td>郷育魅力化ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを中心に、聞き書きの手法を取り入れた活動の実施</td></tr>
</table>

５　真庭高校を取り巻く現状

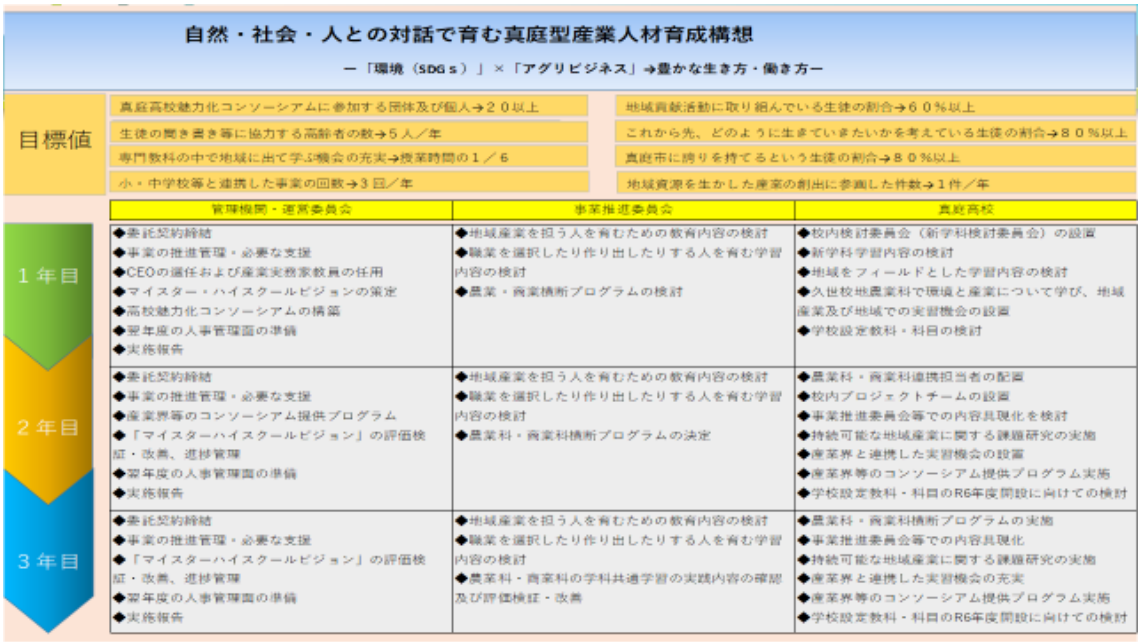
指定校である真庭高校は、令和４年度から校地が統合され、学科改編が行われる渦中にあり、事業に指定されている“農業学科”“商業学科”とも新学科が立ち上がっておらず、生徒はもちろん教員も配置されていない状況にある。

令和３年度の事業実施に当たっては、久世校地に設置されている「生物生産科」「食品科学科」が中心となり、落合校地の総合的な探究の時間等を加味し、令和４年度の事業運営の本格実施に向けて教育内容の検討と人材育成プログラム案の策定を行った。



6　マイスター・ハイスクール事業運営に関する年次計画

事業推進に向けて、「管理機関・運営委員会」「事業推進委員会」「真庭高校」の主な役割を明確にするために、次のような年次進行によるロードマップを作成した。



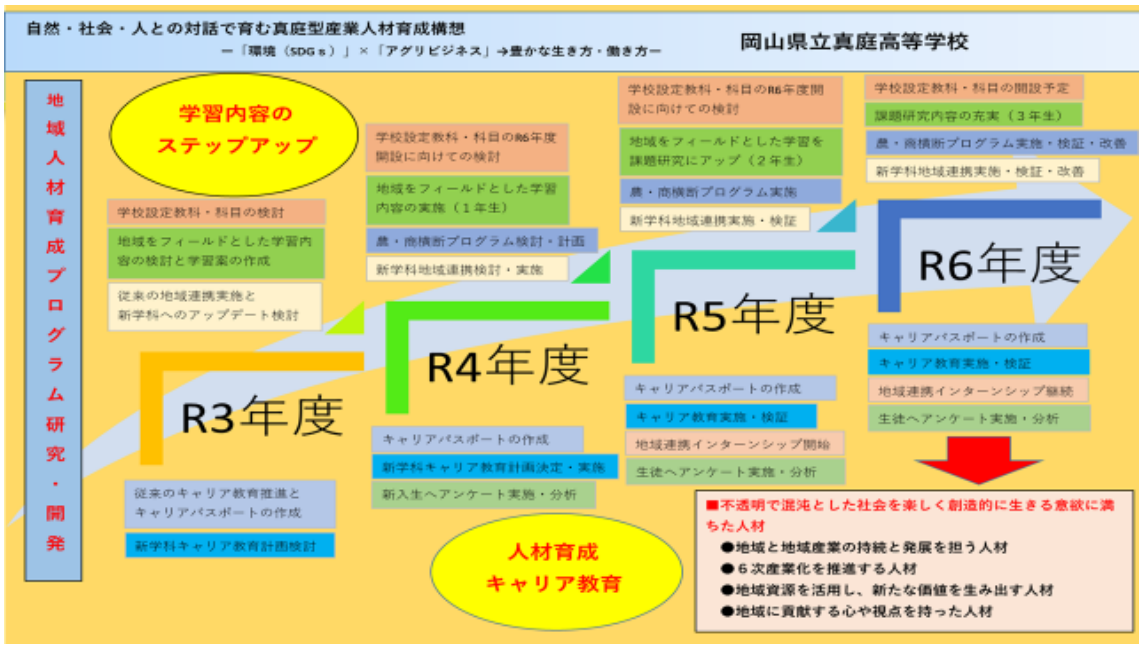
自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想

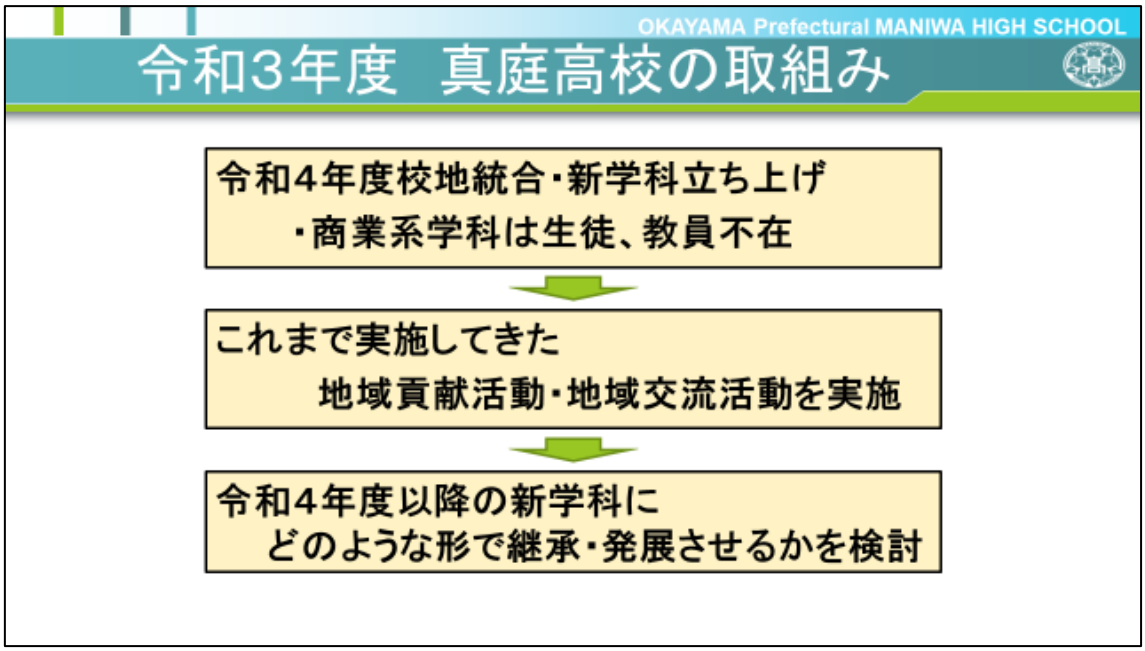
―「環境（SDGｓ）」×「アグリビジネス」→豊かな生き方・働き方―

目標値	
真庭高校魅力化コンソーシアムに参加する団体及び個人→２０以上	地域貢献活動に取り組んでいる生徒の割合→６０％以上
生徒の聞き書き等に協力する高齢者の数→５人／年	これから先、どのように生きていきたいかを考えている生徒の割合→８０％以上
専門教科の中で地域に出て学ぶ機会の充実→授業時間の１／６	真庭市に誇りを持てるという生徒の割合→８０％以上
小・中学校等と連携した事業の回数→３回／年	地域資源を生かした産業の創出に参画した件数→１件／年

	管理機関・運営委員会	事業推進委員会	真庭高校
１年目	◆委託契約締結 ◆事業の推進管理・必要な支援 ◆CEOの選任および産業実務家教員の任用 ◆マイスター・ハイスクールビジョンの策定 ◆高校魅力化コンソーシアムの構築 ◆翌年度の人事管理面の準備 ◆実施報告	◆地域産業を担う人を育むための教育内容の検討 ◆職業を選択したり作り出したりする人を育む学習内容の検討 ◆農業・商業横断プログラムの検討	◆校内検討委員会（新学科検討委員会）の設置 ◆新学科学習内容の検討 ◆地域をフィールドとした学習内容の検討 ◆久世校地農業科で環境と産業について学び、地域産業及び地域での実習機会の設置 ◆学校設定教科・科目の検討
２年目	◆委託契約締結 ◆事業の推進管理・必要な支援 ◆産業界等のコンソーシアム提供プログラム ◆「マイスターハイスクールビジョン」の評価検証・改善、進捗管理 ◆翌年度の人事管理面の準備 ◆実施報告	◆地域産業を担う人を育むための教育内容の検討 ◆職業を選択したり作り出したりする人を育む学習内容の検討 ◆農業科・商業科横断プログラムの決定	◆農業科・商業科連携担当者の配置 ◆校内プロジェクトチームの設置 ◆事業推進委員会等での内容具現化を検討 ◆持続可能な地域産業に関する課題研究の実施 ◆産業界と連携した実習機会の設置 ◆産業界等のコンソーシアム提供プログラム実施 ◆学校設定教科・科目のR6年度開設に向けての検討
３年目	◆委託契約締結 ◆事業の推進管理・必要な支援 ◆「マイスターハイスクールビジョン」の評価検証・改善、進捗管理 ◆翌年度の人事管理面の準備 ◆実施報告	◆地域産業を担う人を育むための教育内容の検討 ◆職業を選択したり作り出したりする人を育む学習内容の検討 ◆農業科・商業科の学科共通学習の実践内容の確認及び評価検証・改善	◆農業科・商業科横断プログラムの実施 ◆事業推進委員会等での内容具現化 ◆持続可能な地域産業に関する課題研究の実施 ◆産業界と連携した実習機会の充実 ◆産業界等のコンソーシアム提供プログラム実施 ◆学校設定教科・科目のR6年度開設に向けての検討

担当校である真庭高校は、“真庭高校を取り巻く現状”を考慮しながら、令和５年度の事業終了時及び令和６年度からの自走に向けてのロードマップを作成した。事業開始当初はこれまで行ってきた地域貢献活動や交流活動、総合的な探究の時間等を継承しながら、令和４年度以降にどのように継承・発展することができるかを研究していくこととした。





７　令和３年度管理機関実績

①管理機関による人的支援

本事業指定校の真庭高校は、令和４年度から学科改編という大きな変革の時期にあって、職業専門校としての魅力をさらに生み出すため、木質バイオマス産業では先端を行く真庭市内産業の人的資源を授業に活かすことを目指し、地元企業銘建工業株式会社に管理機関として参画してもらった。また、管理機関では、同社管理職社員を産業実務家教員として令和４年度より任用するため、令和３年度において実習講師として真庭高校の生物生産科に派遣をしている。また、高校教育への理解を深めるため、管理機関の一翼を担う岡山県教育委員会では、真庭市行政及び教育職員への高校魅力化学習会での講義の実施や本事業を遂行するための適切なアドバイスを行っている。また、真庭市は本事業を通じた新たなカリキュラム編成を主導するマイスターハイスクール CEO に適する人材を確保するとともに、全庁挙げての応援態勢ととるため、庁内にプロジェクトチームを立ち上げ、産業部局を通じて真庭高校への支援を地元商工会、法人会等へ呼びかける等、地域産業界での応援体制に繋げるための支援を行っている。令和４年度は地域と高校をつなぐコーディネータを市教育委員会部局に新たに配置する。

②管理機関による財政支援

管理機関の代表である真庭市にとって、真庭高校は、地域産業の担い手として多くの産業人材を輩出してきたことから、同校の存続は持続可能な地域づくりを進める上で重要な課題であるため、市を挙げて財政支援することとしている。本事業は令和５年度で終了するが、本事業中に編成するカリキュラムがスタートする令和６年度以降においてもそれまで培ったノウハウを活かし続けるため、高校と連携して継続した財政支援を行っていく。令和３年度は、五感を使って地域を学ぶため、聞き書きのスキームを取り入れた実習や、地域産業と連携する先進校視察のための財政措置をしたが、新型コロナ感染症拡大の影響で活動そのものが出来なかった。令和４年度も引き続き、こうした取組への財政支援を行う。

真庭市
【高校魅力化応援事業】の実施

- 郷育魅力化コーディネーターの配置
- 助成金の交付
- 高校魅力化学習会の開催　５回
  岡山県教育庁高校魅力化推進室　室長　室貴由輝氏
  真庭なりわい塾　塾長　澁澤壽一氏
- 高校魅力化推進シンポジウムの開催
- 真庭市内高校生の通学環境整備

銘建工業
【産業実務家教員の配置】

- １１月より産業実務家教員を配置
- 工場＆バイオマス＆木造建築ツアー

③地域で支える体制づくり

真庭市では、市内中学生の市内高校への進学率が年々低下しており、高校と地域の連携の基盤づくりに取り組んだ。８月には高校魅力化シンポジウムを開催し、保護者、中学生、教員、地元産業界等に幅広く高校の魅力と地域への必要性について啓発を行った。YouTube ライブやその後のアーカイブでの視聴も合わせ 1,300 回再生を超えるなど市民意識の向上に一定の効果を得られた。また、２月にはワークショップを開催し、中学生と高校生を Zoom でつなぎ高校での学習内容について意見交換をするなど生徒が主体的に高校の魅力について語る場を作ることができた。また、卒業間もない若手 OB 等からも高校教育での学びについてのアドバイスをもらう等、若者同士での語らいで子どもが「行きたい高校」、「学びたい環境」の一端と若者の教育への意識が予想以上に高いことを確認した。

８　令和３年度真庭高校の実績

今年度は、指定を受けた新学科が立ち上がっていないため、地域資源を活用した学習カリキュラムの実施において、以前から実施してきた地域貢献活動・地域交流活動を実施しながら、新学科へどのような形で継承・発展させるかを検討した。コロナ禍の影響で計画を中止又は縮小して実施せざるを得なかったが、生徒は熱心に取組み自己有用感や達成感を味わうことができた。

①＜地域の特産化を進めるフルーツパプリカ『ぱぷ丸』の栽培と普及活動＞

日時：令和３年１０月２０日（水）12:30～13:30　※１０月１９日（火）納品

給食センター受け渡し

小学生へのぱぷ丸説

小学生と一緒に喫食

フルーツパプリカ「ぱぷ丸」の生産と普及活動に、令和元年から取り組んでいる。今年度は、学校給食「真庭食材の日」に、学校で生産した「ぱぷ丸」を提供し、高校生が生産者として説明を行い、「ぱぷ丸」を使用した給食を小学生と一緒に喫食し交流する行事を行った。

②＜ドローン研修（スマート農業）＞

日時：令和３年１１月２６日（金）10:00～11:50

事　前　講　義

興味を持って受講

飛行操作実習

スマート農業への興味・関心を育てるため、ドローンへの理解を深め、その操作技術を体験学習した。

③＜地域の特産化を進めるフルーツパプリカ『ぱぷ丸』を使ったレシピの研究＞

日時：令和３年４月～

試作調理

試　作　品

ぱぷ丸　レシピ

1．　チーズインぱぷ丸ハンバーグ　（チーズなし　可）

～材料～

牛豚ひき肉：250g
玉ねぎ：大1/2筆
ぱぷ丸：2個
パン粉：大さじ4
塩・コショー：各少々
ケチャップ：適量
牛乳：大さじ4
チーズ：適量

1．　玉ねぎとぱぷ丸をみじん切りにする。フライパンにサラダ油を熱し、玉ねぎ、ぱぷ丸、塩少々を炒めておける。
玉ねぎがしんなりしてきたら、火をおめて冷ましておく。
2．　玉ねぎの粗熱が取れたら、ボウルに牛豚ひき肉と合わせ、混ぜる前に、パン粉、塩・コショー、牛乳を加え、全体をしっかりと混ぜます。
3．　タネが出来上がったら、空気抜きにぎゅっぎゅっとかなめの中で焼き固め、ずく状ってに成型するようにチーズを入れて成型していきます。焼き目に薄くまぶるなら薄目をたもって目を整え、片すから目やへ焼く焼けるようにして空気を抜きます。
4．　フライパンに油を薄くひいて、中火にかけて熱くなったらハンバーグを並べて焼きます。
片面に焼き色がついたら裏返します。
最後にもう下ゴ分ほどじっくり蒸し焼きにして完成。

普及用レシピ

生物生産科が栽培している『ぱぷ丸』を使った料理を食品科学科生徒が研究し、レシピを作成して販売場所での普及活動に使用した。

④＜ハーブ活用学習会＞

日時：令和３年７月１２日（月）9:00～13:00

ハーブガーデン見学

リース作成実習

完成したリース

真庭市蒜山にあるハーブガーデンを訪問し、ハーブに関する講義を受けるとともに、ハーブを活用したリース作成に取組み、地域の理解につないだ。

⑤＜SDGｓを題材とした探究活動＞

日時：令和３年４月～令和４年３月

聞き取り取材中

真庭ＳＤＧｓパートナーとして、地元を題材に、実体験を元に、グローバルな視点で思考し、発表に結びつける姿勢を培う。各学年を３つに分け、数人のグループをつくり探究活動を行った。

⑥＜銘建工業　工場＆バイオマス＆木造建築ツアー＞

日時：令和３年７月 30 日(金)　12:45～17:30

SDGｓの説明を受講

工　場　見　学

工　場　見　学

⑦＜こども園との農業交流＞

日時：令和３年６月１５日（火）10:00～11:50　第１回（植栽交流）

日時：令和３年１１月１６日（火）10:00～11:50　第２回（焼きイモ交流）

地域のこども園と連携。高校生が野菜や草花の植栽等を指導し交流を行った。

⑧＜地域合同防災訓練＞

日時：令和３年１１月９日（火）13:00～16:00

高校生が中心となり、地域の小学校、住民会と連携して、合同の防災訓練を行う。（今年度はコロナウイルス感染症対策のため校内のみで実施）

⑨＜地域対象の即売会等＞

・令和４年　４月２３日（金）ふれあい市・野菜苗販売

・令和４年１１月　５日（金）タマネギ苗販売

・令和４年１１月１３日（土）きらゝ祭文化の部

・令和４年１２月１６日（木）シクラメン販売（真庭市役所）

・令和４年１２月１９日（日）勝山マルシェ

また、令和４年度以降実施予定の「地域企業と連携した取組」をバックアップしていただく連携先を開拓することができた。さらに新たな企業からも具体的な連携の提案をいただくことができ、次年度以降の活動につなぐことを検討している。

協力企業　地元の多くの企業様・団体様が皆さんの学習をバックアップ　(順不同)

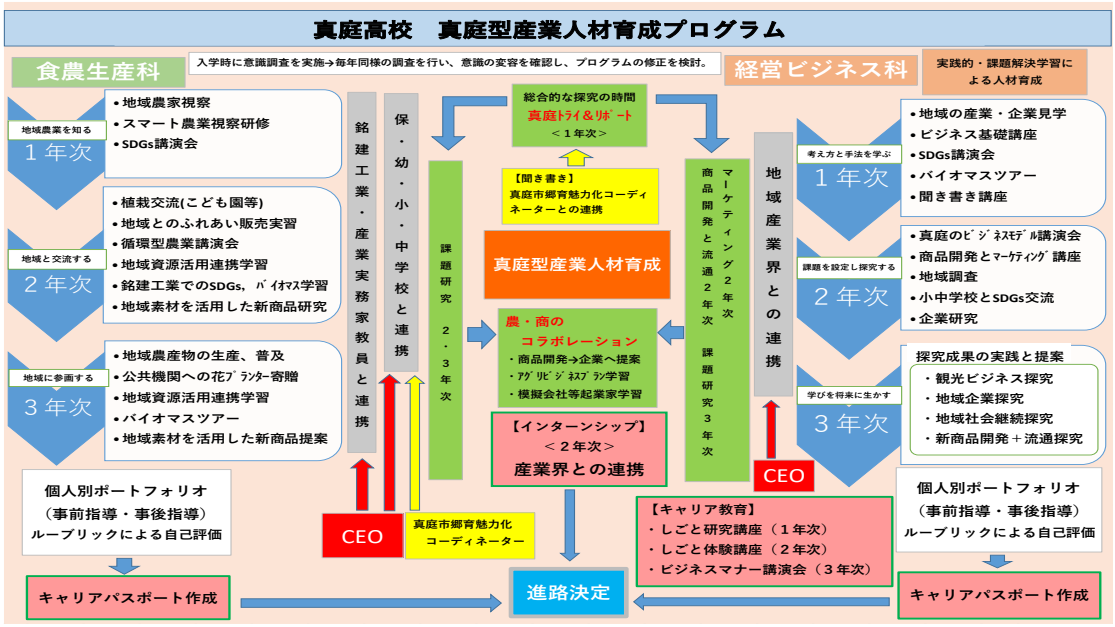
旭ポリスライダー（医療用針）／アロイ工業（合金）／落酒造場（日本酒）／古見屋羊羹（羊羹）／JA 晴れの国岡山（農業協同組合）
ミック工業岡山工場（エアコン）／日本スーパー工業（ハードディスク）／洋菓子の店マルス（古見屋羊羹支店）（洋菓子）
佐田建美（建具）／醍醐桜（ジェラート）／三栄源エフ・エフ・アイ（食品添加物）／山陽精機（金型）／醍醐の里（道の駅）
中山石灰工業（工業用石灰）／道満石油店（石油・ガス他）／藤岡エンジニアリング（軽金属）／三橋サンブリッジ工業（産業用工作機械）
ランデス（コンクリート製品）／小林製材（製材）／安田工業所（鉄骨）／三協商建（建設・LP ガス）／山下木材（製材）
辻本店（日本酒）／東真産業（石油他）／道満モータース（自動車整備）／銘建工業（建材）／デンソー勝山（電子部品）
岡本旅館（旅館）／伊藤写真館（写真館）／十字屋グループ（営農・販売ほか）／真庭環境衛生管理（浄化槽等ほか）
らぁ麺和っか（飲食）／真庭商工会／真庭観光局（旅行）／垂水向津矢住民会　　他多数

9　真庭型産業人材育成構想実現に向けての教育課程検討の取組

令和３年度の取組みを「真庭高校　真庭型産業人材育成プログラム」及び総合的な探究の時間「真庭トライ＆リポート」年間活動計画にまとめ、新学科の学習内容と地域連携活動の取組みを作成した。

今年度の取組みを通して、「真庭高校　真庭型産業人材育成プログラム」を策定するとともに、令和４年度実施の「真庭トライ＆リポート」実施計画を決定した。

「真庭高校　真庭型産業人材育成プログラム」は、大きく２つの流れで構成されている。



一つ目は、銘建工業をはじめとする地域企業や異校種との連携活動を、専門科目の学習内容に落とし込んで実施するものである。体験活動等の実施は、事前指導・事後指導をしっかり行い、ルーブリック評価による自己評価を実施する。それらの記録は個人別にポートフォリオとし、進路学習で使用するキャリアパスポート作成に繋ぐという流れである。現在、新学科のシラバス作成に当たり、学習内容と連携活動の落とし込みを進めている。

二つ目は、１年次に実施する「真庭トライ＆リポート」で地域をフィールドとした探究活動を行い、その成果を２年生以降の専門科目内で活用する流れである。新学科「食農生産科」・「経営ビジネス科」での学習を深化させるために農・商のコラボレーションを実施し、商品開発や企業への企画提案、ビジネスプラン学習、模擬会社等の起業学習に取り組むものである。

このプログラムについては、２月に実施された運営委員会で報告を行い、進路指導で使用するキャリアパスポート作成に結びつける内容などに評価をいただいた。

学校設定教科・科目に関しては、事業推進委員会と連携し、令和６年度の新学科完成年度開設に向けて研究を行う。

岡山県立真庭高等学校 総合的な探究の時間
■2019年5月～真庭SDGsパートナー ⇒ Think Globally Act Locally
R04真庭トライ＆リポート（TR）
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD
トライ：五感を通した実体験重視
リポート：必ず発表に結びつける姿勢（まとめ冊子・発表会・外部コンクールなど）
3年生：HOW TO LIVE
進路実現・卒業後の生活のために学ぶ
※進路実現に直結・個人
2年生：WHAT TO LEARN
自分で課題を設定し、調べる
※2学科ミックス・生徒主体・グループ単位
1年生：HOW TO LEARN
ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ
※3学科ミックス・担当教員主導・グループ単位
1年生 食農生産・経営ビジネス・看護 木曜6限
2年生 普通・看護 木曜6限
3年生 普通 月曜6限
五感を通した実体験
質・量の向上
TRを通して身につけさせたい4つの力
論理的思考力
ねばり強さ
協働性
地域参画力
シンキングツール活用（OUTPUT書く話す行動する⇒INPUT聞く読む）
【失敗＝×じゃない！】 ⇒ 失敗体験（試行錯誤）からの気づき
【集団がチームになるまで】⇒ みんなで一つのこと・各自の強みで役割分担
【＝地域貢献力】⇒ 地域に関心、地域課題の理解、地域の人との協働

令和４年度　１年生　真庭トライ＆リポート（ＴＲ）　総合的な探究の時間　年間活動計画

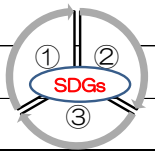
校地間連携会議資料

回	月　日	プロセス	評価	内　容	形　態	活動場所	担当者
1	4月18日	(1)テーマ導入	評価Ⅰ	■TR導入：ＴＲムービー・説明（Tryやってみる・Report人に伝える）・３年間の見通し	１年全体	会議室	ＴＲ担当者
2	4月25日			■地域散策：落合総合センター・しめ山付近・サンプラザ・コミュニティスペース・商店街	１年全体	学校周辺	１年団
3	4月26日			■SDGsについて（PPT説明）Think Globally, Act Locally	１年全体	宿泊研修 @友愛の丘	ＴＲ担当者
4				■学校周辺にあったもの・あったらいいもの（付箋紙色分け→イメージマップ→各班発表）	各クラス		各担任
5	4月27日			■学校周辺にあったもの・あったらいいもの（クラス代表発表→質疑応答→指導講評）	１年全体		１年団
7	5月2日			■『SDGs ～MANIWAの”ﾆ=愛”～』チャンネル活動内容説明とチャンネル希望アンケート （本時あるいは終礼にてアンケート実施→即回収→考査期間中にグループ編成）	１年全体	会議室	ＴＲ担当者
8	5月23日	(2)テーマ設定 (3)探究活動計画		■チャンネル内グループ割り　→計画・テーマ設定　→活動計画書（Ａ４版）担当者へ提出 ※計画に時間を取られすぎないように注意 （まず何かの活動に取り組んでみて、その活動を振り返ってテーマを見つけるのがオススメ）	各チャンネル	①１組ＨＲ ②２組ＨＲ ③講義室 ＋ 視聴覚教室 図書室 校外など	各担当者
9	5月30日						
10	6月6日	(4)探究活動①	評価Ⅱ Ⅲ	■五感を通した実体験を積み重ねる。 ■input（読む聞く）＋output（話す書く行動する）→outcome（成果・効果） 自分の目で見る、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。 メディア情報（本・ＴＶ・ＰＣ）だけに頼らない。 ・各プロジェクトで外部講師講演ＯＫ ・図書館・インターネットでの調べ学習 ・校外インタビュー ・アンケート（生徒・教員・保護者・地域） ・実験・実習・制作 ・カメラ・ビデオ活用・パソコン ・調査（同じ場所に複数回）（異なる場所で比較分析）			
11	6月13日						
12	6月20日						
13	6月27日						
14	7月11日						
15	9月12日						
16	9月26日						
17	10月3日	(5)まとめ①	評価Ⅰ Ⅱ Ⅲ	■中間発表に向けたまとめ　パワーポイントなど発表準備 ※発表原稿はてもとに準備しておいてもよいが、発表時には見ないように。 ※７月下旬にＰＰＴ作成講習会を行っておくことが望ましい。Ⅰ学期末考査後に１時間確保？ 〔１年全体@視聴覚教室／ＴＲ担当者〕 まとめ冊子にＰＰＴ作成講習会資料あり。			
18	10月17日						
19	10月24日						
20	10月31日	(6)発表①		**■中間発表会　　３・４限＋５・６限** **３・４限：チャンネル内発表会　各チャンネル６班　【７分発表→２分質疑応答】** **５・６限：２年発表会　３チャンネル×２班　（６班）【７分発表→２分質疑応答】**	**３・４限 各チャンネル ５・６限 １年全体**	**３・４限 ①②③ ５・６限 会議室**	**３・４限 各担当者 ５・６限 １年団**
21							
22							
23							
24	11月7日	(4)探究活動②	評価Ⅱ Ⅲ	■五感を通した実体験をさらに積み重ねる。 中間発表会での学びを活かして、さらに探究活動を深める。他の班の良かったところを見習おう！ 地域を直接訪れる。地域の方に会って話をする。地域の方と一緒に何かに取り組む。	各チャンネル	①１組ＨＲ ②２組ＨＲ ③講義室 ＋ 視聴覚教室 図書室 校外など	各担当者
25	11月14日						
26	11月21日						
27	11月28日						
28	12月12日	(5)まとめ②	評価Ⅰ Ⅱ Ⅲ	■成果発表会に向けたまとめ　パワーポイントなど発表準備 ■まとめ冊子原稿作成Ａ（パワーポイント印刷＋メモ） ※今年度は成果発表会のあと１時間しか授業がないため、 成果発表会準備と並行してまとめ冊子原稿作成を行う。			
29	12月19日						
30	1月16日						
31	1月23日						
32	1月30日	(6)発表②		**■チャンネル内発表会　　各チャンネル６班　【７分発表→２分質疑応答】**			
33	2月3日 or４日			**■真庭トライ＆リポート（ＴＲ）成果発表会** **１年生：全班プレゼン発表@教室棟** **２年生：代表班プレゼン発表@落合総合センター** **※中国学園大学副学長住野好久先生をはじめとした外部の方々よりご指導ご講評をいただきます。**		教室棟	１年団
34							
35							
36							
37	2月13日	(7)ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ 総括	評価Ⅱ Ⅲ	■まとめ冊子原稿作成Ｂ（関わった人たち、各自振り返り、担当教員講評）→２月末原稿締め切り		視聴覚・電算室	各担当者
38	3月6日			■年間振り返り・ＴＲアンケート（クロームブックで入力）	各クラス	各ＨＲ	各担任

■形態：学年単位とし，３年間を通して段階的に発展していく。３年間の見通しをもって，総合的な探究の時間『真庭Try&Report（TR）』を計画する。
【第１学年】”HOW TO LEARN”（ものごとを調べ，まとめる方法を学ぶ）課題別グループ学習〔SDGsや地域への興味・関心を広げる〕
【第２学年】”WHAT TO LEARN”（自分で課題を設定し，調べる）　進路別課題学習〔SDGsや地域への知識・理解を深める〕
【第３学年】”HOW TO LIVE”（進路実現・卒業後の生活のために学ぶ）進路別課題学習〔具体的な自身の進路実現〕
※経営ビジネス科・食農生産科は３年間各１時間、看護科は１年時１時間のみ。

■学校ＴＲ探究テーマ『SDGs未来杜市真庭～地域を学び、地域に学ぶ』
【経営ビジネス科４０名＋食農生産科４０名＋看護科４０名】→３チャンネル【①４０・②４０・③４０】→各チャンネル７班【各班６名】
→　ビデオ・まとめ冊子を用いてＴＲの説明　→　各クラスイメージマップで考えを広げて整理
→　生徒は自身の興味・関心・目標に応じて希望調査用紙提出　→　チャンネルメンバー分け

『SDGs』			
	①○○○○チャンネル　４０名（男子　名・女子　名）　６名×７班	１年１組ＨＲ	教員Ａ 教員Ｂ 教員Ｃ
	②▲▲▲▲チャンネル　４０名（男子　名・女子　名）　６名×７班	１年２組ＨＲ	教員Ｄ 教員Ｅ 教員Ｆ
	③□□□□チャンネル　４０名（男子　名・女子　名）６名×７班	１年講義室	教員Ｇ 教員Ｈ 教員Ｉ

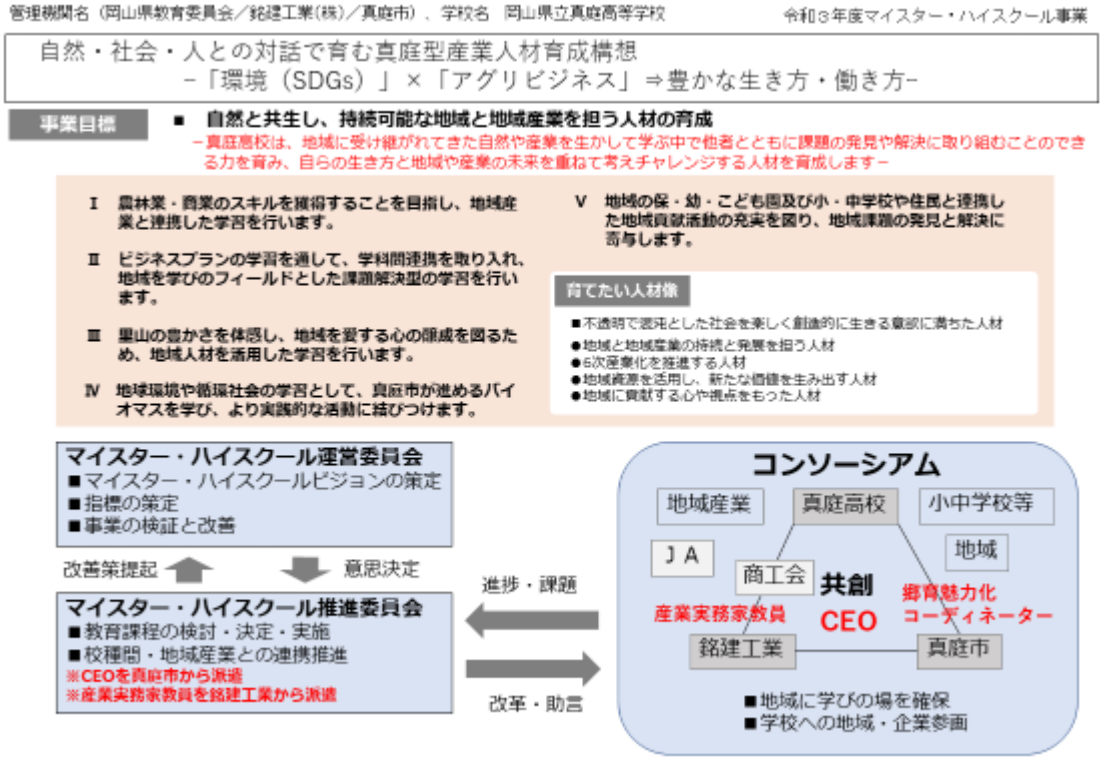


※各プロジェクトに複数教員を割り当て，出張休暇等に柔軟に対応する。（不在予定は事前に連絡を。）

※活動場所【図書室】【社会科教室】【視聴覚教室】【電算室】【4-1】【4-2】【5-1】【5-2】【5-3】【5-4】などは１・３年団で事前協議。
電算室・視聴覚教室ＰＣ使用について：３年生が電算室，１年生が視聴覚教室を原則とする。（３年生が使わない３学期は電算室も使用可能）

※『真庭市』『しめ山プロジェクト』『MIT』などの外部機関と積極的に協働して探究活動を深める。
☆聞き書き吉野さんプロジェクトを全班の活動に加えるか、数班を聞き書きに特化した活動として加えるか。
01自然環境：津黒いきもの‥雪江さん、02自然資源：服部興業川原さん、03地域活性：黒田さん、04地域活性：しめ山プロ‥（池田さん）、05地域活性：余野藤田亮太さん、06地域ビジネス：岡本旅館岡本さん、07広報：真庭いきいきテレビさん、08健康福祉：真庭市愛育委員、09防災：真庭市防災課、10防災：真庭市消防、11防災：自衛隊、12自然：真庭市環境課、13教育：真庭市教育委員会、14資源：トンボ学生服鵜材活用、15環境：岡山環境ミーティング、16地域名人：聞き書き（文章とムービー）、17生涯教育：鏡野シルバースクール白梅大学、18健康福祉：白梅体育館、19地域イベント：トンボの森、まちかど展覧会、祭り、20地域医療：落合病院金田病院、21地域農業：JA真庭（AI、里海米、パブリカ）、22地域名所：落合醍醐桜保存会、北房蛍保存会、アシタカ冒険の森赤木さん、十字屋、はにわの森、醍醐の里、湯原クライミング　などなど

学校全体での実施体制は、二つの校地で新学科検討委員会を設置しているが、新学科の立ち上げの混沌とした状況である。今年度は CEO が配置できておらず、真庭市教育委員会と真庭高校が協力して運営を行った。産業実務家教員が令和３年１１月から非常勤で配置されたことを受け、生物生産科において連携し、SDG s 等の環境学習や労働安全教育などの授業を行っている。学校の状況を理解し、生徒との信頼関係を築きながら授業を実施している。令和４年度では、二つの校地を兼務しながら授業にあたり、地域産業界との連携や SDG s 等の環境学習を展開する計画である。CEO が２月に行われた運営委員会で選任され、４月から常勤配置されることをふまえ、CEO を中心とした実施体制を構築する。また、校内実行委員会において事業の進捗状況を確認し、事業推進委員会・運営委員会へ報告する。運営委員会で成果の検証・評価を実施し、事業推進委員会が計画・方法の改善を指定校とともに検討・改善する。



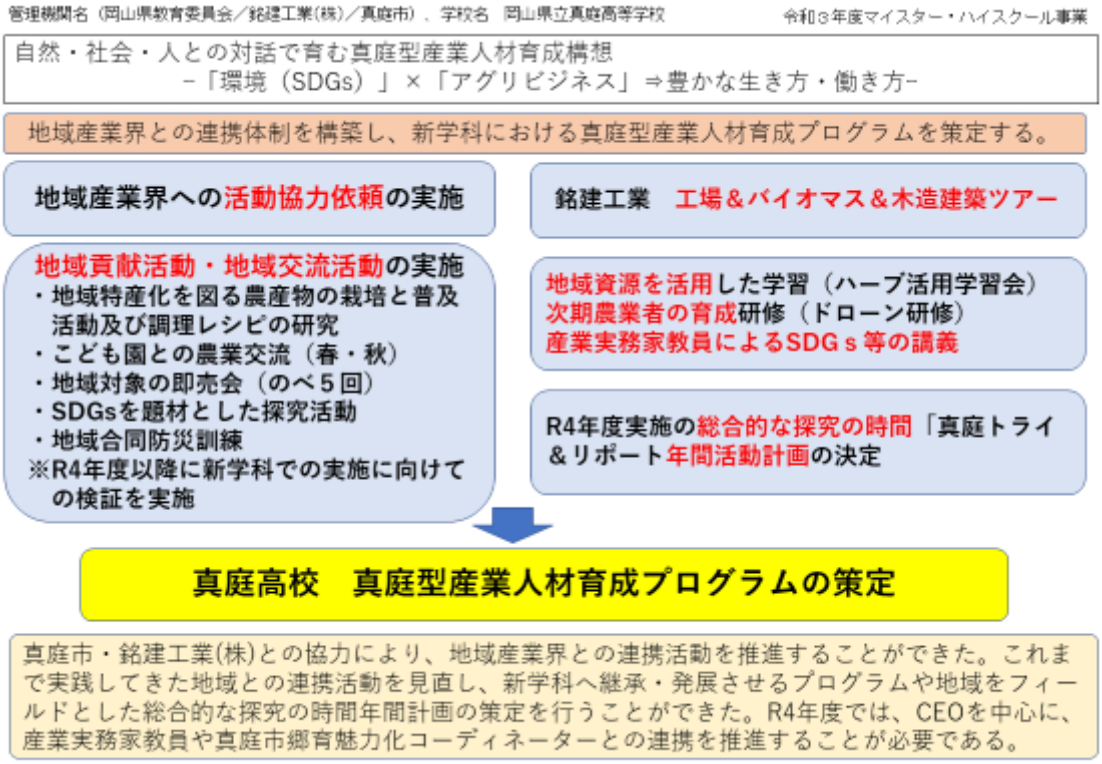
事業推進については、伴走者による伴走支援をいただき大変参考になった。管理機関と指定校の状況を理解した上で事業推進のアドバイスをいただいており、次年度以降も事業の方向性や PDCA サイクルの構築などに御協力をいただきたい。

今年度の事業成果については、学校ホームページへの掲載、学校情報紙「風の階段」等で生徒の取組みの様子を発信した。次年度以降は、ホームページ以外にも SNS を利用した情報発信や、真庭市と連携した広報紙への掲載など、真庭高校の魅力を発信する手法について CEO・校内実行委員会を中心に検討・実施する。

１０　目標の進捗状況，成果，評価

本事業のビジョン策定に際し、事業目標として「自然と共生し、持続可能な地域と地域産業を担う人材の育成」を掲げた。指定校においては、地域に受け継がれてきた自然や産業を生かして学ぶ中で他者とともに課題の発見や解決に取り組むことのできる力を育み、自らの生き方と地域や産業の未来を重ねて考えチャレンジする人材を育成するという方向性を示した。

今年度は、コロナ禍の中ではあったが、実施方法を検討しながら各種の取組みを実施し、成果をあげることができた。



事業計画に示した目標値の進捗状況・成果・評価は次のとおりである。

◆真庭高校魅力化コンソーシアムに参加する団体及び個人→２０以上

コンソーシアムとしての構築は今後の課題であるが、高校へのバックアップを受けていただいた企業等は３５社であり、その後も連携の申し出を２社からいただいている。今年度については目標値達成に向けて良好な取組みができたと考える。

◆生徒の聞き書き等に協力する高齢者の数→５人／年

聞き書きの実施は令和４年度から実施する。真庭市郷育魅力化コーディネーターとの連携を実施しており、協力いただける高齢者への働きかけを実施中である。今年度は、未実施であるが、準備は進んでいると考える。

◆専門教科の中で地域に出て学ぶ機会の充実→授業時間の１／６

コロナ禍の中で、地域に出て学ぶ機会を設定することは困難であったが、感染症対策

を十分に行った上で、こども園との植栽交流（２回）、真庭市の特産化を目指すフルーツパプリカ「ぱぷ丸」の普及活動と真庭食材の日（食材として「ぱぷ丸」を提供）による小学生との喫食、草花等の販売実習、ハーブガーデンでの学習会、銘建工業での工場＆バイオマス＆木造建築ツアー参加、SDG s を題材とした探究活動などを実施することができた。また、地域住民を対象とした校内外販売を実施し、地域との連携を深めるとともに、生徒の達成感や自己有用感の育成に努めた。

令和４年度以降、状況を見ながら実施をする。実際に地域へ出向くことに加え、オンラインでの機会設定も実施予定である。

◆小・中学校等と連携した事業の回数→３回／年

こども園との連携を２回、小学校との連携を１回実施できた。今後も異校種連携活動を充実させるため、真庭市郷育魅力化コーディネーターと連携して計画・実践を行う。今年度は、目標値達成ができた。次年度以降、さらに内容の充実を図る。

◆地域資源を生かした産業の創出に参画した件数→１件／年

JA 晴れの国岡山と連携し、地域の特産化を進めるフルーツパプリカ「ぱぷ丸」の栽培と普及活動に取り組んだ。高校で「ぱぷ丸」苗の生産を行い、地域の農家へ供給することができ、産業創出には至っていないが、農作物の地域の特産化に参画することができた。

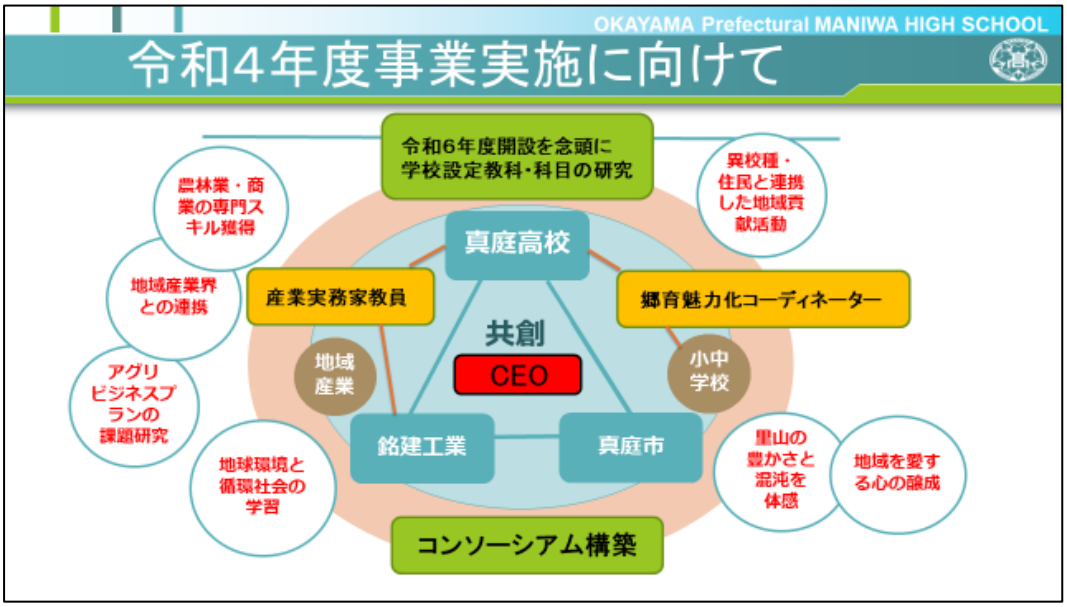
※以下の目標値については、令和４年度当初にアンケートを実施し、毎年生徒意識の変容を確認し、検証を行う。

◆地域連携活動に取り組んでいる生徒の割合→６０％

◆これから先、どのように生きていきたいかを考えている生徒の割合→８０％以上

◆真庭市に誇りを持てるという生徒の割合→８０％以上

１１　終わりに（次年度以降の課題及び改善点）



令和４年度の事業内容として、次の点に取り組む。

①本年度策定した「真庭高校　真庭型産業人材育成プログラム」に基づき、真庭高校がこれまで実施してきた地域連携活動を、再検討し、継承・発展させるために専門科目へ具体的に落とし込む必要がある。また、令和６年度開設を念頭に、地域理解を深めるための学校設定教科・科目として、地域農業ガイダンスや農・商連携した学習の検討を進めており、具体的かつ効果的な案を作成する。

②産業実務家教員の配置や具体的な連携活動の提示が遅れたため、銘建工業との連携活動を軌道に乗せることができなかった。この連携活動を実施するために、銘建工業との連携を強化するとともに、産業実務家教員による指導内容をシラバスに明示し、実践する。

③異校種との交流活動を実施し、真庭高校の学習を地域へ発信していかなければならないが、その活動をコーディネートすることが課題である。特に小・中学校との連携が重要であり、真庭市郷育魅力化コーディネーターと連携し、異校種との連携活動を実施する。

④地域産業界との具体的な協力体制が十分でないため、ＣＥＯを中心に事業推進委員会の助言をいただきながら協力体制を整える必要がある。一つ一つの連携を「真庭高校真庭型産業人材育成プログラム」に盛り込み、実施・検証を図り、地域産業の担い手を育成する。

⑤地域産業界からの応援の声は聞こえているが、より具体的な支援に結びつけるため、真庭高校と地域産業界の対話の機会を設定する必要がある。管理機関を中心に地域産業界からの支援体制を確立したコンソーシアムの構築を図る。